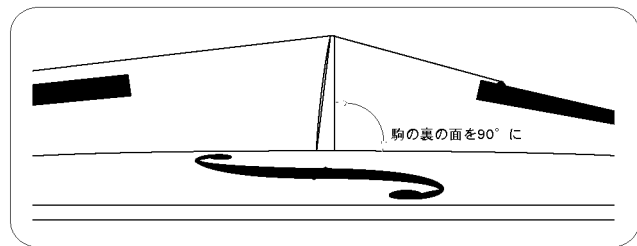
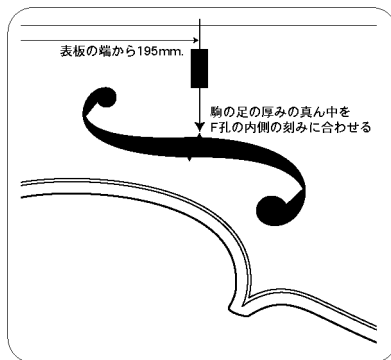


弦楽器の基礎知識

3) 駒

駒には色々な形があり、それぞれに特徴がありますが、今回はそれらの個々について述べることは割愛し、いづれにも共通した基本的で大切なこととお話します。

まず、駒の位置ですが、左右の f 字孔の切れ込みをつないだ線上に駒の足があるのが正しい位置です。そして指板の頭の方からながめて、駒が中央にあり、また表板に対して駒の裏面が垂直に立っていることが必要です。この三方向からの位置確認を絶えず行い、駒がおじぎをしないよう注意して、いつも修正する心がけをしてください。駒を少し動かすときは、テールピースの下に柔らかい物をひいて、弦をある程度ゆるめ、弦と表板の間に指を入れ（こつです）、駒が急にバチンと倒れないように注意しながら、少しずつ修正して下さい。



駒の厚さは、一般的に薄くすれば、高音までレスポンスのいい抜けのいい音になりますが、あまり薄くしすぎると、かえって貧弱な音色になってしまいます。とくに楽器の表板が平坦な（フラットな）楽器ではこの傾向が強いようです。また、駒の材料としては、古くて硬いものが良い結果を生むようです。（古いというのはおわかりだと思いますが使われて古くなった物ではないです）

駒を製作する際、表面から削りを入れて厚さの調整をしますが、裏面からは削りません。また、駒の足は、楽器の表板にあわせて曲面にピッタリと合うように削ります、チェロの場合は弦の圧力で足が1ミリほど開いた状態で。駒の頭の曲線や糸溝の幅は、演奏しやすいように作りますが、この微妙なニュアンスは、職人にも演奏家としての経験があれば最高です。

一つ一つの楽器に合わせて入念に作られる駒。変形しないよう、いつもチェックをお忘れなく。